

**施設の役割 WE LOVE とよたの拠点  
目指す姿 みんなで作りつづける博物館**

自立した主体（市民・地域・企業）との共働により、「郷土への愛着」と「未来に向けた創造」力を生み出す。

(3) 博学連携学習事業

：子どもが郷土の歴史・文化・自然に興味・関心を持つきっかけを作る。【C】  
＜セミナールーム・体験室・自然／歴史体験空間（屋外）＞

(4) みんなで作りつづける博物館事業

：上記（1）～（3）を共に進める博物館と市民や団体との活動＜常設展示など＞  
市内各地の歴史・文化・自然やそれに関わる市民との交流や情報発信  
企業などの未来に向けた様々な取組を紹介する【D】＜（仮称）えんにち空間＞  
郷土の歴史・文化・自然への興味・関心を深める自主的な学びを支援  
博物館へ来館するきっかけを生み出す魅力創出【E】  
＜ミュージアムカフェ・ミュージアムショップ・イベント広場・ウッドデッキ＞

1 事業と施設

- (1) 展覧会事業：本市の歴史・文化・自然を扱う総合博物館として、市民の関心度が高いテーマの展覧会や、国宝・重要文化財などを扱う集客力のある展覧会を実施する。【A】  
本市の成り立ちについて歴史・文化・自然を通じて紹介する展示空間【B】  
＜企画展示室・コレクション展示室・常設展示など＞
- (2) 収集・保存／調査事業  
：本市の歴史・文化・自然に関わる資料を調査・収集・保存する。＜収蔵庫など＞

A コレクション展示室



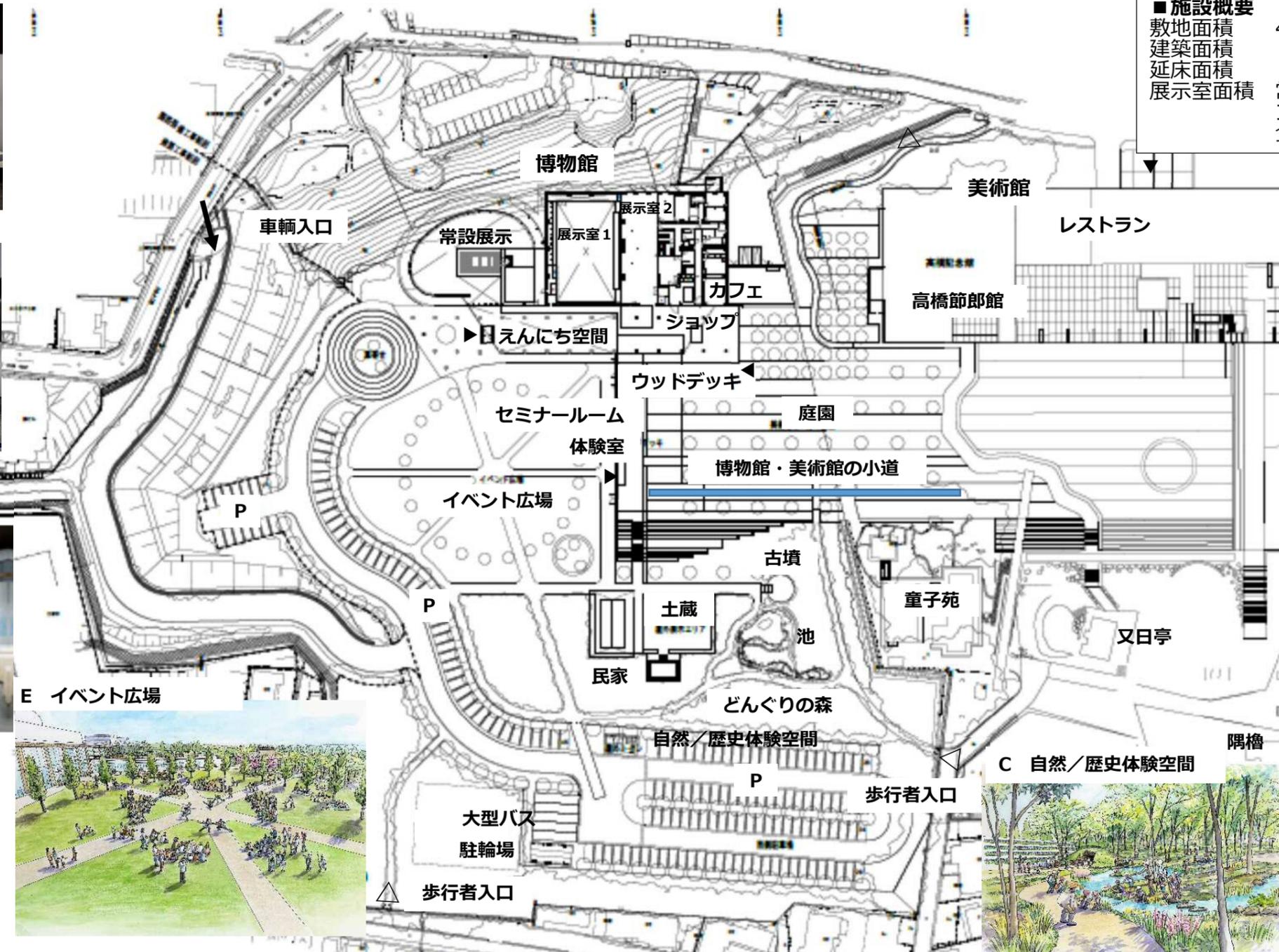
B 常設展示



B 常設展示



歩行者入口



■施設概要

敷地面積	40,147.95 m <sup>2</sup>
建築面積	4,556.27 m <sup>2</sup>
延床面積	7,877.28 m <sup>2</sup> （地上4階）
展示室面積	常設展示室（約650 m <sup>2</sup> ）、 コレクション展示室（約230 m <sup>2</sup> ）、 企画展示室（約550 m <sup>2</sup> ）、

D（仮称）えんにち空間



■旧館の閉館と新館の開館

- ①郷土資料館閉館  
：令和4年9月末  
産業とくらし発見館  
：令和5年3月末  
※郷土資料館閉館後は、他の文化財施設等での出張展示や出前授業・資料貸出で対応  
※郷土資料館は、閉館後も博物館への資料移管が完了するまでは継続使用
- ②新館の完成：令和6年1月
- ③新館の開館  
部分開館：令和6年1月末  
全面開館：令和6年10月初旬  
⇒全面開館後、資料移管を実施（令和6年度未完了予定）

▲：エントランス  
p：駐車場  
△：歩行者動線 →：車輻動線  
企画展示室：展示室1  
コレクション展示室：展示室2

## 2 施設利用と事業内容

### (1) 施設利用

- \* 美術館と隣接する施設として、利用者にとって分かりやすい開館日・開館時間を旨す。  
 <参考：豊田市美術館>
- \* 開館日 火～日曜日（月曜休館） ※年末年始（12月28日～1月4日）休館
- \* 開館時間 午前10時00分～午後5時30分 ※美術館の開館日・開館時間と同一

### (2) 事業内容

#### ① 展覧会事業

- \* 開催回数 4回/年度（会期：1. 5ヶ月～2. 5ヶ月程度）  
 ※うち、1～2回程度/年度について、集客力のある共催展や巡回展を想定

#### ② 博学連携学習事業

- \* 来館児童・生徒数：約10,000人（来館のみ/出前・貸出除く）

#### ③ みんなでつくりつづける博物館事業

- \* 活動グループ 調査・収集活動（市民の記憶・岩石・昆虫等）・屋外体験空間
- \* ボランティア 展示ガイド・ユニバーサル支援・博学連携
- \* 企業・団体協定 郷土史・自然愛護団体や企業等との共働展示実施
- \* マルシェや先端技術体験会等のイベント実施

## 3 博学連携学習のあり方について

### (1) めざす「学び」と「まち」の姿

- ・ 学びの姿「現地現物の観察と対話を通じた<考える力>と<表現する力>の醸成
- ・ まちの姿「豊田市の価値や魅力を自分ごととして語るができる人が生きるまち」

### (2) 利用のあり方

- ・ 小学1年生～中学3年生までの学びに対応
- ・ 小学校および中学校の学習指導要領や学習進度を尊重した学びを基本とする。
- ・ 平日（午前9時30分～午後2時30分）利用を主体とする。

### (3) 学習の幅と概要

- ① 社会科・理科・国語等の教科について学習プログラムを用意  
 ※「WE LOVE とよたプログラム」と連携して実施
- ② 美術館と連携し図工・美術科などについても対応  
 ※幼児教育や高等学校および大学については、各機関・教員との対話の上、実施内容を決める。
- ③ 学びの場の考え方  
 \* 博物館では、市の全体像の把握や実物資料が観察できる展示室と、対話・発表が可能なセミナールームが整備されたため、本市の歴史・文化・自然に関わる総合的な学びが可能  
 \* 博物館と市内の施設・現地を組み合わせることで、より深い学びに導く。  
 \* 学校や学区内で実施することに意義がある学びは、各学校を拠点に「出前授業」を実施  
 \* 従来の「資料貸出」は、感染症まん延下でも持続可能な博学連携学習の手法として継続実施

## 4 課題

- ・ 「みんなでつくりつづける博物館」の実現に向けた、子どもの博物館への愛着や、地域への興味・関心を継続・成長させる活動の充実  
 ※ ライフステージに合わせた、また様々な主体（市民・地域・企業）が参加できる博物館活動等
- ・ 学びの機会の継続性の確保（仕組みや場・人的体制・交通手段）  
 ※ 小・中学校（各1学年）を博物館に誘導するバス借上費 概算14,700千円（220台）

## ■ 博物館が展開する学び

## 博学連携事業

点と点を結ぶ  
総合的で  
対話的な学び

教員の  
やりがい  
施設への愛着

### 博学連携委員会

- ・ 教員が主体的に参画し、授業に使える博物館へ
- ・ 学習プログラムの立案・検証・更新

子どもの  
興味・関心  
施設への愛着

地区や市への  
愛着醸成

### 学 校・学 区

\* 学校区に根差す学習や学校で対応可能な学習  
 <例えば…>

- ① 「土地のつくりと変化」(小6理科)
  - ・ 校舎建設時の地質ボーリング資料の観察
- ② 「戦国の世から天下統一へ」(小6・中2)
  - ・ 学区内の城館址等の見学
  - ・ 戦国時代の鎧を着る体験

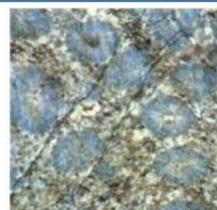


鎧の試着体験

### 博 物 館

\* 博学連携に関わる諸事務と学習対応を総括  
 \* 本市の歴史・文化・自然に関わる総合的学習  
 <例えば…>

- ① 花こう岩を中心とした市内の地質環境を知り  
 防災・産業との関わりについて意見交換・発表
- ② 「長篠・長久手合戦図屏風」を観察し、戦国時代の戦い方や戦況について意見交換・発表



球状花こう岩



長篠合戦図屏風

### 美 術 館

\* 所蔵品を活用し、図工・美術等の授業に対応した学習  
 \* 国内外の文化の理解や、コミュニケーションの活性化  
 <例えば…>

- ① 「この筆あと、どんな人？」(小6図画工作科)  
 巨匠の筆遣いに注目し対話によって作品の理解を深める体験
- ② 「日本の美意識」(中2美術科)  
 茶器等のデザインの観察や高橋節郎の漆芸作品の鑑賞

### 市 内 各 地

- ① ガラス原料採掘地の地層観察や  
 加工工場の見学
- ② 寺部城下や遊佐家・旧松本家長屋門等の見学
- ③ 自然観察の森での自然物の観察



ガラス原料採掘地の地層

社会参画や  
世代間交流

市民の  
やりがい  
施設への愛着

市 民  
地 域  
企 業

地域・企業  
のやりがい  
施設への愛着

地域や  
企業の  
魅力発信

市民や企業人、教員、団体などとして「みんなでつくりつづける博物館」へ参画  
 「豊田市の価値や魅力を自分ごととして語るができる人が生きるまち」の実現